志村 恵「楽しいツインズライフ」⑯

一生のぶつかり合い

前回は、中学などのクラブ活動について、同じクラブがいいのか、別々のクラブがいいのか書きました。今回は、同じ職業を選んだふたごについて書きたいと思います。それは、田島征彦(たじまゆきひご)・田島征三(たしませいぞう)兄弟のことです。二人はそれぞれユニークで素晴らしい画家・絵本作家で、征彦は『じごくのそうべい』や『みみずのかんたろう』など、征三は『ちからたろう』『とべバッタ』などで知られています。またこの二人は、一度共同制作で『ふたりはふたご』を発表しています。みなさんもこれらの絵本に触れられたことがあるのではないでしょうか?でも実は、このふたご大変に厳しいというか、一見仲が悪いように思えるほどお互いある面遠慮なく罵署雑言を書きあっています。それぞれがエッセイ集を出しているのですが、その中で兄弟への批判を書いているほどです。僕は二人の絵本が大好きですし、エッセイ集も大変楽しく、そして大いに考えさせられながら読むのですが、そうした二人を見ると、心配で心配で仕方がなかった。でも、今回二人が出身地の高知県の新聞社から出した『往復書簡』を読んで、その心配がいっぺんに吹き飛びました。あ〜、よかった!

ふたりは中・高の時代からそれぞれ絵画に関心を持ち、征彦が京都の美術大学に、征三が東京の美術大学に進学し、いろいろ苦労しながらも自分たちの才能を発揮してきました。絵本に関しては、征三が『やぎのしずか』で先に大ブレークし、その後征彦が『じごくのそうべいで』ぐんと抜き去る、そんな感じで抜いたり抜かれたりしています。もちろん、絵本の世界はレースではありませんが、外目には結構そんな印象があります。そして、それぞれが名をなした後、ときおりふたり一緒に展覧会やワークショップ、講演会などに招待されるのですが、僕らにはわからない一種独特のライバル心のようなものをむき出しにしてしまうことがあったようです。簡単に競争心や僻みなどと言ってしまうと別物になるような、本当に一種独特の感情です。

「あの時は、おまんに三分の二ばあも時間をやって、ゴミ問題を一人でうんとしゃべらしちゃったろうがよ。ぼくのスライドの絵本読み語りに人気があり過ぎたに怒っちゅうが?」とか、「ユキちゃんがスライドを使うて講演すると言うきに、てっきり、絵についての『考え』や『想い』なんかを語るのかと思うた。そしたら、なんと『みみずのかんたろう』を朗々読みはじめたきにあきれたねえ。それを見(聞いて)、ぼくがユキちゃんを『コバカにした』というけんど、絶望的になったことは確かじゃ」などと書きあうのです。絵本描き、否本当の意味でのアーティストですから、こと作品や絵を書くことの姿勢については、それぞれ相当の、それこそ人生をかけた思いがあります。それはそれは厳しいです。時には、「おまんには絵描きはむりじゃ」と恐ろしい挑発を投げつけたり、相手の作品に対して「あんなもん、撤去してしまえ」と叫んだりさえしています。もうびっくりです。でも、そうした中でもお互いの健康を心配しあって、取れた野菜などを送りあったり、六十歳を過ぎてもそれぞれ「セイちゃん」「ユキちゃん」と呼び合っているのです。

先ほど「心配がいっぺんに吹き飛びました」と書きましたが、むしろほっとするというより、羨ましくさえあります。それは、この夏ドイツの古都にかかる古い石橋の上で出会った、おばあちゃんのふたご。70歳過ぎても同じ格好聾この二人が正面からまともに六十年間ぶつかり合ってきたからです。取り繕つり、ごまかしたりしないで、それこそ全力でぶつかり合い、向き合ってきたからです。なんと素敵なことでしょうか?こんなに本気で他人と向き合うことがあるでしょうか?これこそがふたごの醍醐味です。もちろん、僕たちふたごがみんな田島兄弟のようにまともなゴチンコ勝負をしているわけではあ

りません。しかし、それぞれのふたごが、それぞれのふたごのやり方で、長い一生の間ぶつかり合い、向き合って行くのではないでしょうか?

多くのお母さんお父さん方から、ふたごのケンカについて質問をされます。「どうしたら、もっと仲のよいふたごになれるのでしょうか?」などと。でも、ふたごはもう十分に仲がよいのです。ぶつかり合い、じゃれ合い、反発し合うほどにです。ですから、よほど危なくなければ(かんだり、物を使ったりです)、ケンカしているふたごを、「アッ、ケンカしてるな。仲がいい証拠、仲がいい証拠」と余裕を持って見守ってあげたいと思います。だって、一生ぶつかり合い、向かい合うんですよ、心配したら身がもちません。むしろ、そうしてぶつかり合う相手がいる幸福をこどもたちと一緒にかみしめたいと思います。その意味で、僕にとって田島征彦・田島征三兄弟は同じ高知県生まれというだけではなく、学ぶことの多いふたご人生の大先輩です。

僕は今、そんな二人のオリジナル作品がどうしても欲しくなっています。今年のサンタさんは僕の願いをかなえてくれるでしょうか?絶対に無理そうです…。

『ツインズぷらす』第 22 号（多胎育児サポートネットワーク）から転載・修正